に、明旦をクルツアシタなど訓れど、此は然るべからず、

〔日本書紀十一仁德〕十二年八月己酉、饗高麗客於朝、〇中略明日美盾人宿禰、而賜名曰的戸田宿禰、

〔倭訓栞前編八久〕くるつひ　日本紀に明日をよめり、來るつ日といふ也、つは助語なり、

〔日本書紀十五顯宗〕二年九月、置目老困乞還曰、〇略中天皇聞惋痛賜物千段、逆傷岐路重感難期、乃賜歌曰、

於岐毎慕與阿甫彌能於岐毎、阿須用利簸、彌野磨我倶利底、彌曳鵡賀謨阿羅牟、

〔古今和歌集一春〕題しらず　よみ人しらず

梓弓をして春雨けふふりぬあすさへふらばわかなつみてん

〔萬葉集十五〕中臣朝臣宅守與狹野茅上娘子贈答歌

奴婆多麻乃、欲流見之君乎、安久流安之多、安波受麻爾之氐、伊麻曾久夜思吉、〇略中

右八首、娘子、

〔今昔物語十三〕信濃國盲僧誦法花開兩眼語第十八

今昔、信濃ノ國ニ二ノ目盲タル僧有ケリ、〇略中盲僧一人寺ニ留テ住持ヲ待ツニ、明ル日不來ズ、

〔倭訓栞前編二安〕あした　鄙俗にあすといふべきを、あしたともいふめり、

〔物類稱呼五言語〕明日、明後日といふ事を、播州赤穗にてあすてり、あさつて照といふ、これと祝していふなるべし、土佐にてきのふり、ゆふべりと云も、是に同じきか、

〔類聚名義抄二日〕明朝後日アサテ

〔書言字考節用集二時候〕明後日アサテ

〔日本釋名上時節〕明後日アサテ　あさつてと云ことば、古書にも見えたり、あすさつての後の日なり、

〔東雅一天文〕晝ヒル略〇中　アスの明日をアサテといふは、アは明日なり、サとは去なり、テは語助なり、明日の去りての日をさしいふなり、